

*Study in English  
at Japanese Universities*

# Global30 Project Follow-up FY 2012

大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業 2012年度 フォローアップ

(構想責任者) 辻中 豊  
(役 職) 国際担当副学長  
(所属機関) 筑波大学

# 目次

|    |                       |    |
|----|-----------------------|----|
| 1. | 本事業の成果                |    |
| ①  | 特筆すべき成果と波及効果          | 3  |
| ②  | 英語コースの学生からの評価         | 4  |
| ③  | 留学生の受入                | 8  |
| ④  | 海外大学との連携プログラムの新たな実施   | 9  |
| ⑤  | 大学間交流協定等に基づく交換留学の拡大   | 11 |
| ⑥  | 教育体制の充実               | 13 |
| 2. | 取組状況                  |    |
| ①  | 英語による授業のみで学位が取得できるコース | 15 |
| ②  | 留学生受入のための環境整備         | 21 |
| ③  | 拠点大学の国際化とネットワーク形成     | 24 |
| 3. | 経費の使用状況               | 26 |
| 4. | 今後の課題と事業終了後の見通し       | 27 |

# 1. 本事業の成果

## ① 特筆すべき成果と波及効果

- 2010年8月に他に先駆けて、学士課程2、修士課程5、博士課程3、計10の新しいG30英語コースを発足させた。
- 2009年度にG30英語コースとして再編成した既設12コース、新規開設した2010年度の10コース、2011年度の4コース、2012年度の1コースを加えて、当初計画の20コースを上回る27コース(学士3、修士18、博士6)を開設中である。
- 現在、G30英語コースに在籍する留学生は348人、留学生数は計画時(2008年度)の1,337人(8.1%)から2011年度の2,304人(13.7%)に増加した。
- 本学独自の経済支援策「つくばスカラーシップ」の創設、約4,000戸の学生宿舎のリニューアルなど、留学生支援環境を改善した(国際性の日常化)。
- 関東・甲信越大学間コンソーシアム、パイロットネットワーク(東北大、筑波大、名古屋大)、産官学連携ネットワークを構築し、連携及び成果の普及を主導した。
- 海外大学共同利用チュニジア事務所では、10回の日本留学説明会を主催、2回の日本-北アフリカ学長会議を主催、マグレブ3か国と学術交流に関する包括協定を締結、日本-アフリカ大学連携ネットワーク準備会議の開催を行い、全国大学の国際化に寄与した。

## ② 英語コースの学生からの評価(その1)



アンケート調査 2012年9月

対象 G30留学生(回答者数/全数)

- 学士課程 (46人/82人)
- 大学院課程(112人/266人)
- 全体 (158人/348人、回答率45.4%)

質問項目

- G30プログラムをどこで知ったか
- 筑波大学を志望した理由
- 筑波大学以外に出願したか
- 出願において困難だった点
- 教育の質・内容
- 教員の英語力
- 教員の指導力・専門知識
- 日本語指導の満足度
- 大学生活の満足度
- 支援室からのサポート
- 職員の英語力
- チュータの対応
- 住環境の満足度
- 学生食堂のメニュー
- 卒業・終了後の進路指導・就職指導
- 日本留学の印象
- 後輩への推薦の意志
- 自由記述

### 全般的な意見

#### 筑波大学の良い点

- キャンパス環境及びつくば市全体の都市環境
- アカデミックな教育システム及び英語プログラム
- 教員評価や支援室によるサポート体制は良い評価
- まとまった不満の意見はないように思われる

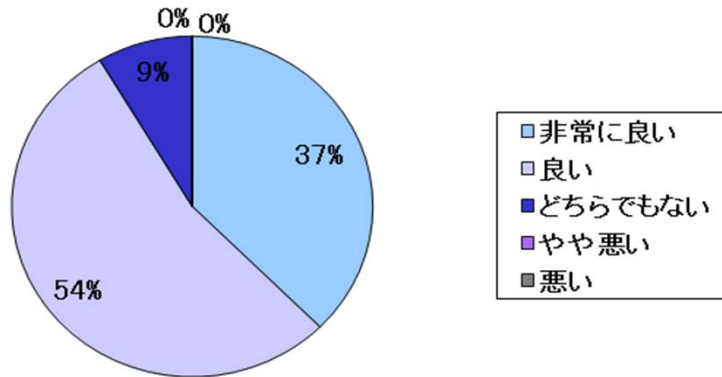
#### 不満な点

- 学生宿舎の質に関する不満の割合が高い
- 日本語によるコミュニケーションやドキュメントの提出が必要な場面はまだ多い
- 英語による情報提供の拡大を求める声が多くある

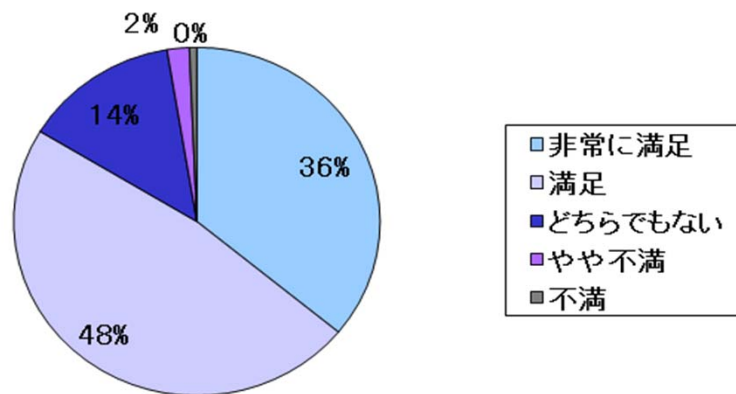


## ② 英語コースの学生からの評価(その2)

### 1. 日本留学への全体的な印象？



### 2. 教育の内容・質に満足している？



#### ウガンダ Aさん

社会国際学教育プログラム2010年8月入学、3年次

Global30プログラムの全留学生に素晴らしい機会を与えてくださった大学に感謝いたします。まず感動したことは先生方がそれぞれ担当の分野に経験豊かな専門知識を持っておられることです。この素晴らしい教授陣の確保にご尽力してくださっている大学に対し何よりありがたく思っています。G30の科目は国際的・学際的で、政治や経済、法学、社会学、生物学、語学など様々な広範囲の専門知識を私たちに与えてくれ、とても魅力的です。そして、学群から継続的で親切なサポートを受けていることも感謝しています。

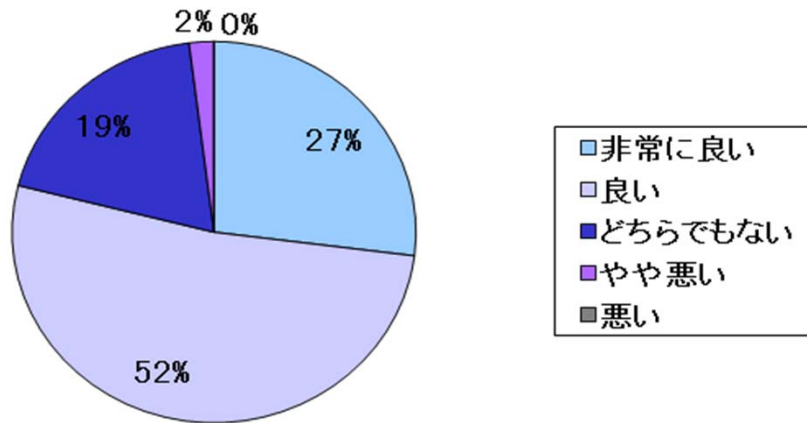
貧困や健康、人権、人間の安全保障、紛争など地球規模の課題のギャップを根絶・縮小をするため国際的に活躍するキャリアをめざし、一生懸命勉強して優秀な成績で国際社会科学士を取得したいと思っています。その後また奨学金を頂くことができれば、政策原則をさらに理解するため公共政策や公衆衛生の修士課程に進みたいと考えています。公共政策は、グローバルな課題に取り組む際の堅実な手段の一つであると信じています。

卒業後は母国のウガンダに戻り、またコミュニティワーカーやソーシャルワーカーとして働きたいと思っています。しかし今度は確実な知識と技能を持ったプロのソーシャルワーカーとして働くつもりです。理論に精通していれば、責務を果たすに当たって理論的構成概念を実践に移すことができるようになると思います。

2010年11月

## ② 英語コースの学生からの評価(その3)

### 3. 教員の英語力は十分?



### インド Bさん

生命環境科学研究科 大学院博士後期課程 1年次

筑波大学はとてもよく組織化されており、教育研究面からみて、学生をサポートするプログラムも素晴らしい。しかし奨学金の数が限られており、しかも奨学金志望者の数は多い。経済的に不安定です。奨学金を増大させて欲しい。

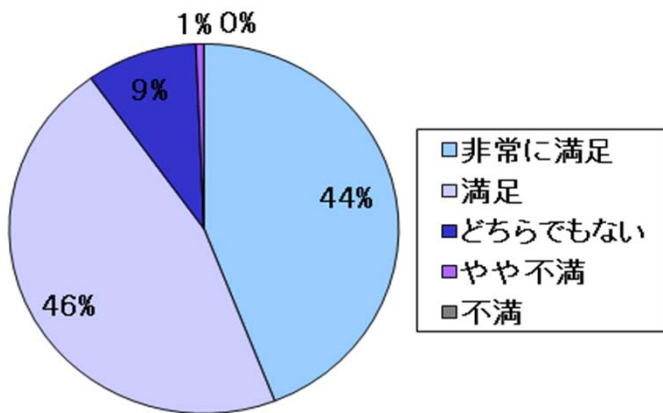
また、大学院での研究を成功させるためには、G30プログラムにおける研究費の充実も望まれます。

筑波大学における教育研究面に、私はとても満足しています。筑波大学で私たちに提供されている研究設備は、ほかに比べてとても充実しているし、私は筑波大学での学修をとても強く勧めたいと思っています。

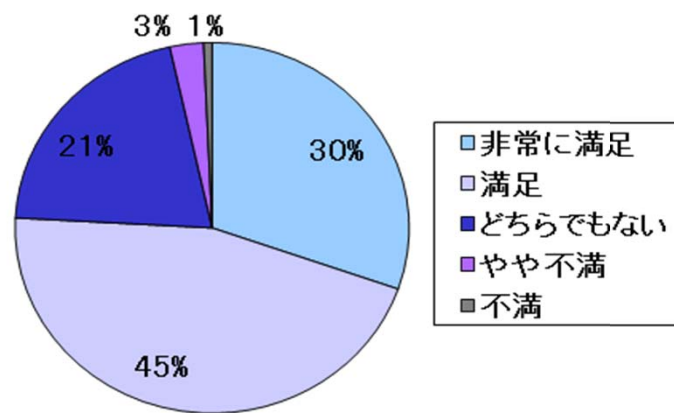
2012年9月

### 4. 各種サポートは十分?

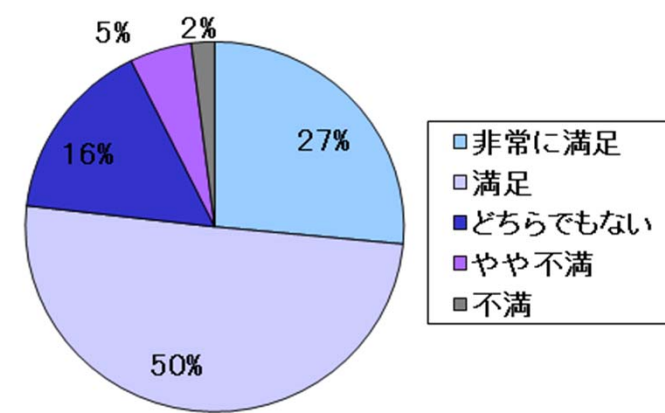
#### ① 支援室からのサポートは十分?



#### ② 学習や生活支援のためのチューターの対応は十分?

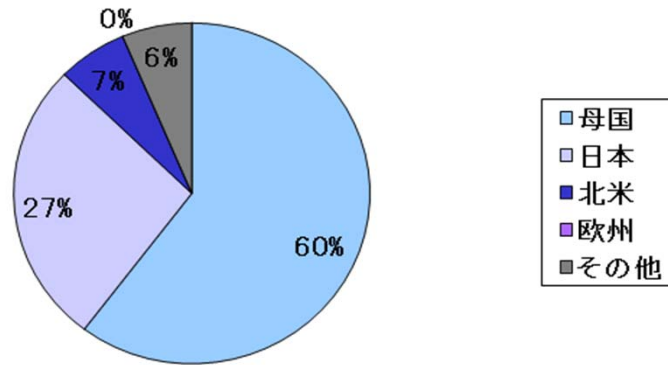


#### ③ 住まいの環境に満足していますか?



## ② 英語コースの学生からの評価(その4)

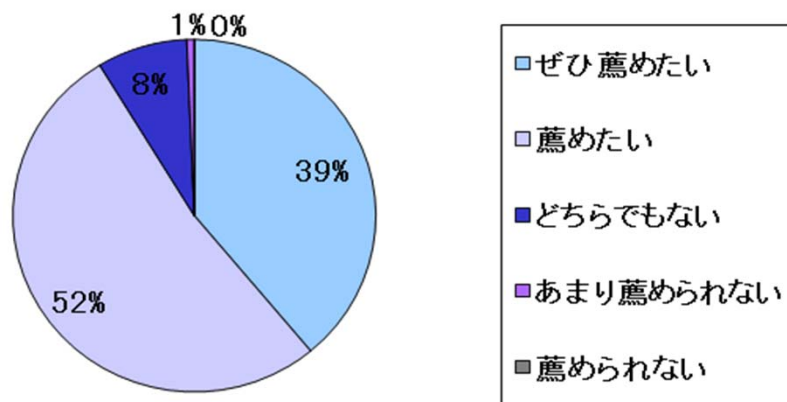
### 5. どの国・地域に就職したい？



### 学生からの意見(良い点)

- 学習環境はすばらしく良い。教員も魅力的で、専門知識に優れている。学生のための教育研究施設も充実している。
- アドミネストレーション及び英語プログラムは充実している。よりチャレンジングな内容を望むという意見もある。
- 博士後期課程の学生から、研究一筋でアカデミック授業を受講する機会が欲しいという意見があった。

### 6. 母国の学生に筑波大学を薦めたい？



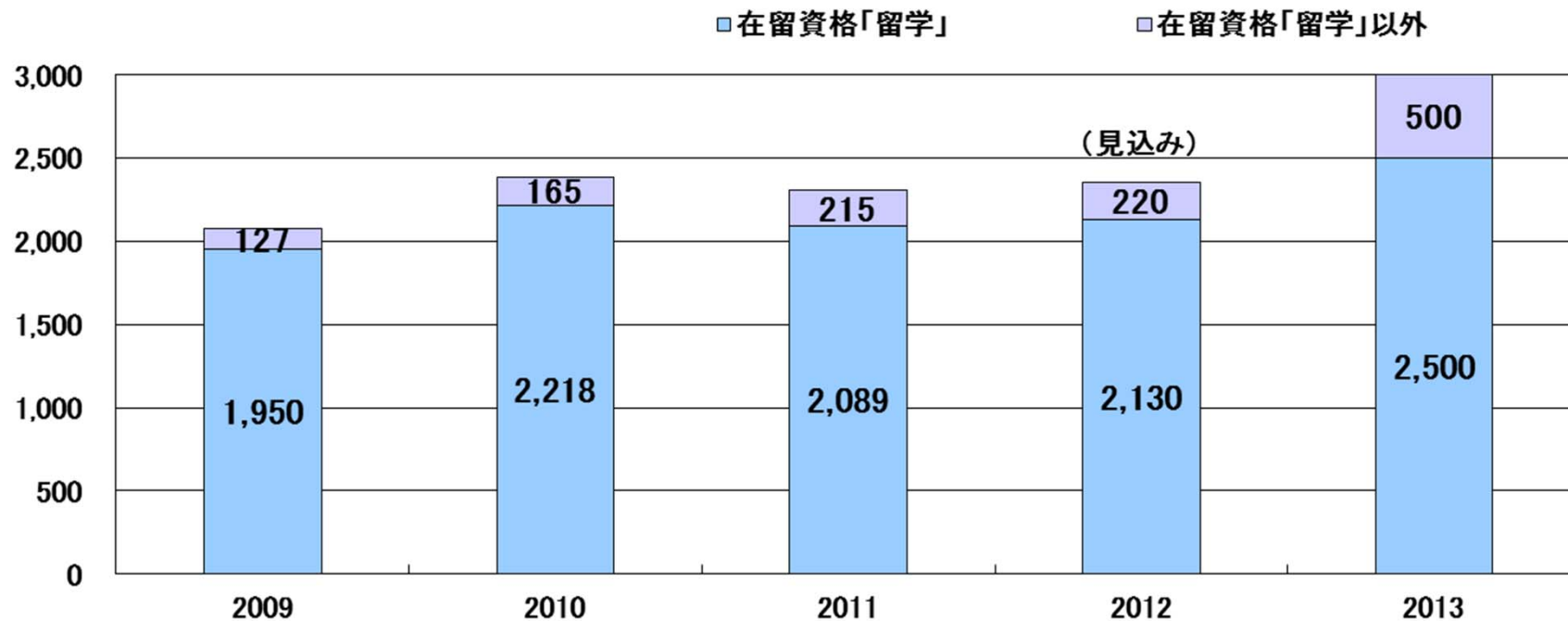
### 学生からの意見(今後の改善点)

- 日本人教員の中には、英語力の向上及び英語による授業を改善してほしい点がある。
- 奨学金の数と内容の充実を求める声非常多い。奨学金や進路など、日本語による表示や掲示が多く、情報が伝わらない。
- ビザの取得、住まい、日常生活のきめ細かなサポートを充実させて欲しい。
- リニューアルされた宿舎に比べて、古くて不備な宿舎がある。
- 日本人学生との交流の機会を増やして欲しい。

### ③ 留学生の受入

- 計画時(2008年5月1日現在)の留学生は1,337人(在留資格「留学」のみ)\*<sup>1</sup>
- 2011年度の留学生は2,304人(13.7%)、そのうち在留資格「留学」は2,089人
- 現在、G30英語コースに在籍する留学生は348人

\*<sup>1</sup> 2008年度以前は在留資格が「留学」のみをカウントしていた。G30以降、在留資格が「留学」以外でも学修目的の留学生を含めてカウントすることとした。



注1) 2009年度～2011年度は実績、2013は目標数

注2) 実績の計上方法は、当該年度の在籍数である。



## ④ 海外大学との連携プログラムの新たな実施



### 【学部レベル】

- ①外国語センター: 学生の語学運用能力を高めるため、ドイツ語、中国語、ロシア語について協定校との間で語学研修に関する協定を締結し、平成20年度はバイロイト大学8名、湖南大学6名、 Санктペテルブルグ大学5名、平成22年度はバイロイト大学13名、湖南大学3名の派遣実績がある。
- ②人文・文化学群日本語・日本文化学類: 授業科目「日本語・日本文化国際実地研修」として、毎年10名前後を協定校であるカターニア大学(イタリア)、リュブリャーナ大学(スロベニア)、静宜大学(台湾)、ボアジチ大学(トルコ)、リヨン第3大学(フランス)に派遣し、現地教員の指導のもとに日本語教育の実習とインターンシップを実施している。平成23年度以降、ホーチミン・シティ師範大学、ハノイ国家大学外国語大学(ベトナム)においても日本語実習を実施している。
- ③社会・国際学群国際総合学類: 科学技術衛星「きずな」を活用して、タイ国アジア工科大学・チュラロンコン大学、マレーシア国マルチメディア大学との間で、共通授業「国際学特別講義」「パターン認識及び逆問題」「基礎日本漢字」「アジア市民社会」「アジアにおけるメディア技術とインターネット」を実施している。
- ④生命環境学群生物資源学類: インターンシップ科目として「国際農業研修」を開設し、毎年15名程度の学生をカセサート大学(タイ)など協定校に派遣し、実習・調査を通して当該国の農業の特色や地域性を学ぶ機会を設けている。平成22年度は、カセサート大学(タイ)20名、ボルドー大学(フランス)10名の派遣実績がある。
- ⑤アラビア語短期講習: チュニジア政府の奨学金プログラムによりチュニス・アル・マナール大学ブルギバ現代言語研究所に毎年4-7名の学生をアラビア語集中講座に派遣する。また、平成23年度から外国語センターに初級アラビア語を開講している。
- ⑥情報学群情報科学類・情報メディア創成学類: 平成21年4月から、先端ITベンチャー企業(株式会社アクセル及び株式会社ネットディメンション)との連携によるET技術者養成プログラム「組み込み技術キャンパスOJT」を開設し、日本人学生および留学生が参加している。

## ④ 海外大学との連携プログラムの新たな実施



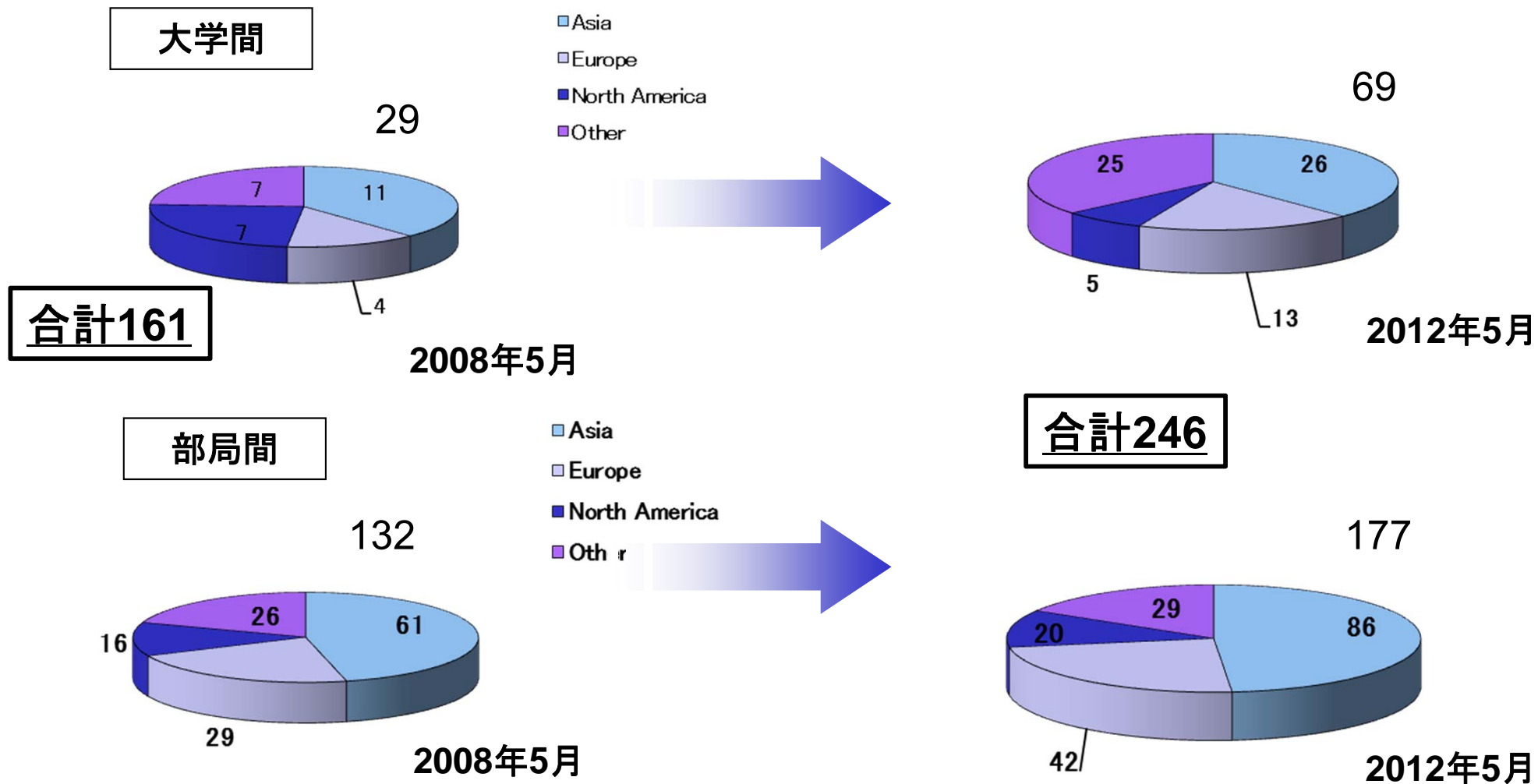
### 【大学院レベル】

- ①数理物質科学研究科物理学専攻:「宇宙史一貫教育プログラム」において米国フェルミ研究所、欧州原子核研究機構に拠点・分室を設置し、学生を派遣して世界の最先端の研究に触れさせている。
- ②システム情報工学研究科コンピュータサイエンス専攻:専攻内専修プログラムにおいて、経団連を窓口とした産業界の協力を得て企業から本学に講師を派遣している。また、平成22年度からは、経団連高度情報通信部会を発展させたCeFIL(高度情報通信人材育成支援センター)の支援を受けて、学内資金によりさらに発展させている。
- ③生命環境科学研究科日中フォーラム;隔年で学生及び教員を派遣:それぞれ修士及び博士課程学生が相手校への訪問や相手国でのフィールド調査を、学生の研究課題として行っている。バイオシステム学コースでは過去5年平均10名/年、生命産業科学専攻では5名/年の学生の短期研究派遣(1週間から1ヶ月)を行っている。
- ④生命環境科学研究科環境科学専攻:インターンシップの一環としてボゴール農科大学(インドネシア)に学生5名程度を派遣し、国立公園の管理システムや劣化した植生の修復活動などの視察等を行った。また、中国雲南省雲南大学に3名程度学生を派遣し、環境破壊地域の実態調査や、生物種多様性の変化の現地調査を行っている。
- ⑤生命環境科学研究科情報生物科学専攻及び構造生物科学専攻:(財)ユネスコ・アジア文化センター・ユネスコ青年交流信託基金事業によるプログラム「アジア太平洋地域の生物系大学院生ネットワーク活動を基盤とするチャオプラヤ・デルタ-メコン・デルタ生態系の総合的研究」と「持続可能な地下水資源管理を目指して:モンゴルにおけるUNESCO Chairを通じて」により、学生12名をタイ、ベトナムに派遣した。
- ⑥生命環境科学研究科生物資源科学専攻:「国際農学ESDインターンシップ」を設け、上限4名の院生をタイ国ユネスコ事務所に派遣し、同事務所でのインターンシップと課題発表を経験させてきた。同時に日本で開催の国際シンポジウム「ESDシンポジウム」の運営に参加させてきた。
- ⑦人間総合科学研究科医学系専攻:平成20年度から3年間の大学院教育改革支援プログラム「個性とキャリアを繋ぐ医科学教育ルネサンス」により、平成20年度は17名の大学院学生がホーチミン市の大学及び同市で最大規模のチョー・ライ病院を訪れ、研究に従事した。これらの研究は帰国後のベトナム報告会において成果を報告し、審査・評価を受けることにより実質化を図っている。
- ⑧人文社会科学研究科:大学院生の語学研修、フィールドワーク、インターンシップ、学術会議、学生会議等の国際活動を支援し、韓国・中国・台湾・ウズベキスタン・キルギス・タイ・スロベニア・ドイツ・フランス・チェコ・オーストリア・スイス・ベルギー・ノルウェー・チュニジア・アメリカ・カナダ・ペルーの協定校及び関連大学に学生45名を派遣した。
- ⑨ビジネス科学研究科国際経営プロフェSSIONAL専攻:平成20年度からフランス国グルノーブル経営学院とテレビ会議システムを活用した遠隔授業を行っている。



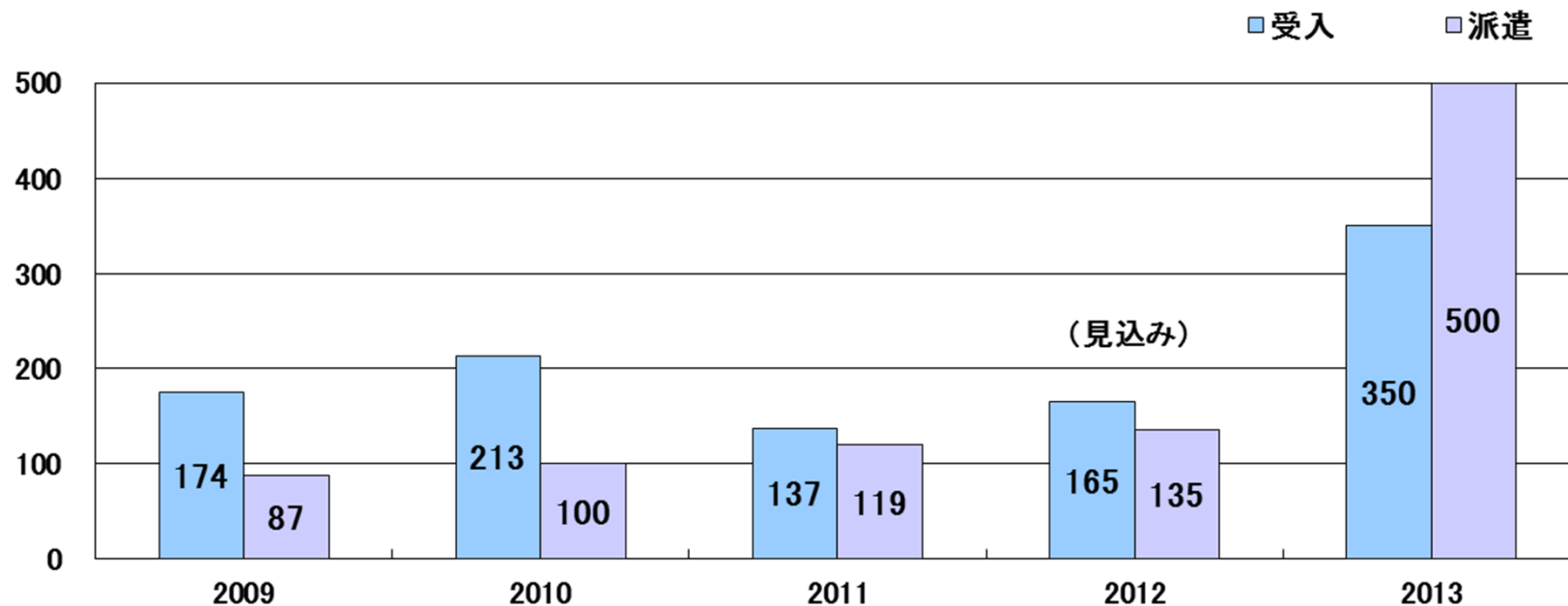
# ⑤ 大学間交流協定等に基づく交換留学の拡大

## a. 協定の締結数



## b. 協定等に基づく学生の受入・派遣

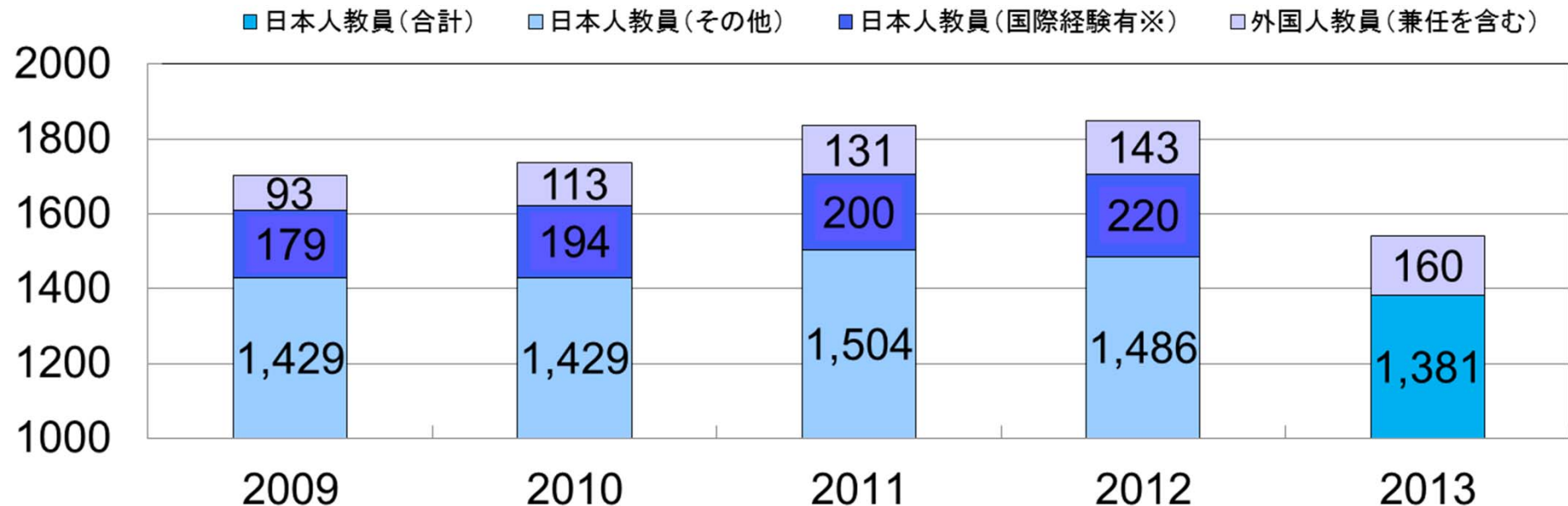
- 計画時(2008年度)の大学間交流協定数は29、部局間交流協定数は132、合計で161
- 2012年(5.1現在)で大学間交流協定数は69、部局間交流協定数は177、合計で246
- 大学間及び、部局間交流協定の増加に伴い、協定等に基づく学生の交流は計画時に比べて、受入が129人→2010年度には213人、2011年度には137人(協定校以外を含めて2010年度は2,383人、2011年度は2,304人)、派遣が89人→119人(協定校以外を含めて459人)
- 2011年度の受入数激減は福島原発事故の影響と思われる。
- 一方で、計画時の目標は2013年度末で、受け入れが350人、派遣が500人



## ⑥ 教育体制の充実

### a. 外国人教員の雇用

- 外国人教員の受入促進策として、国際公募、英語による職場環境の整備を行った。
- 計画時の外国人教員数86名→2012年(5.1現在)143名、2013年度末の目標値160名
- 補助金終了後も、G30英語コースを維持・拡充する方針を学長声明として公表(2012.8)
- 補助金で雇用した者の事業終了後の措置については、教員業績評価を行い、雇用継続者は学内で措置する予定。

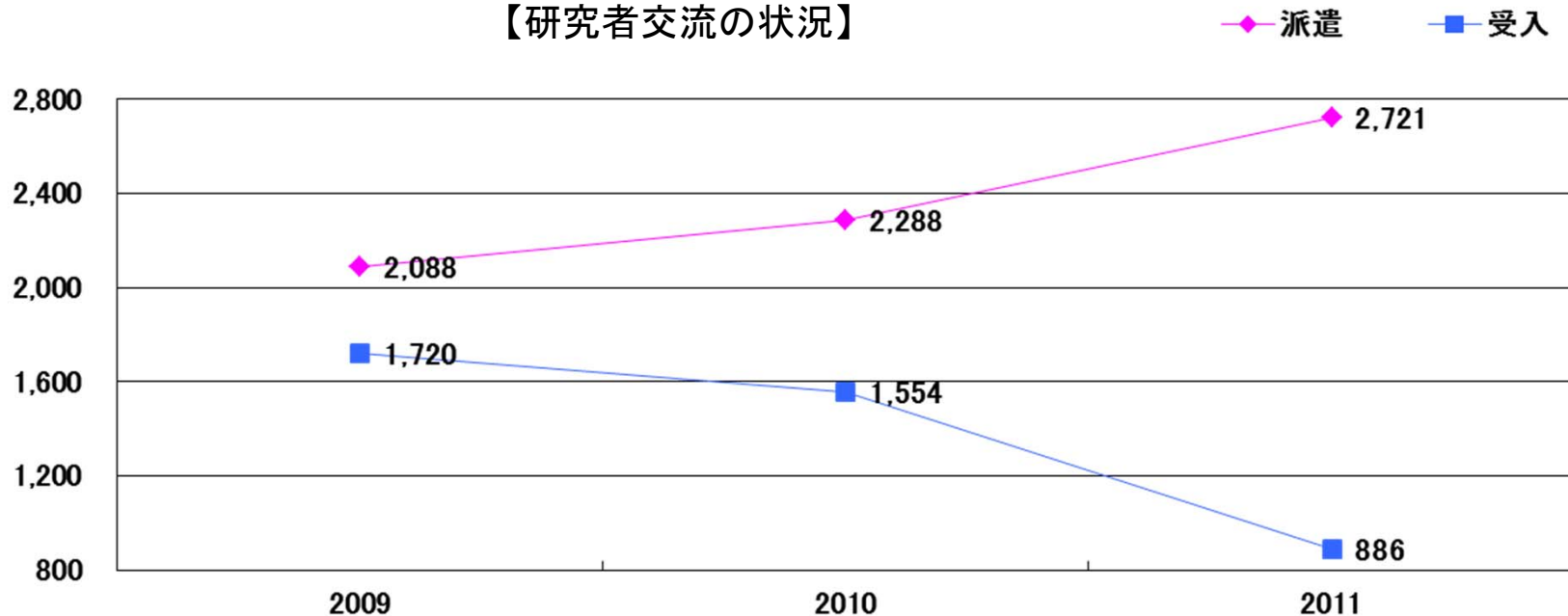


※)「国際経験」とは、海外の大学等における1年以上の教育研究経験または国外の大学での学位取得を示す。  
 注)各年度、5月1日現在。2013年度は目標値。

## b. 日本人教員の海外における教育研究活動への参加促進

- 本学の日本人教員の海外派遣数は、2008年度 1,792名、2009年度2,088名、2010年度2,288名、2011年度2,721名と年々増加している。
- 重点交流協定校の一つである英国シェフィールド大学とは、学術交流プログラムにより教員及び大学院生を派遣している。
- 2011年度福島原発事故の影響により、受け入れ研究者数が激減した。
- 本学は2012年5月現在で59か国の大学と246協定を締結している。今後は、さらに協定校での本学教員の授業等による実践型研修の機会を増やす。

【研究者交流の状況】

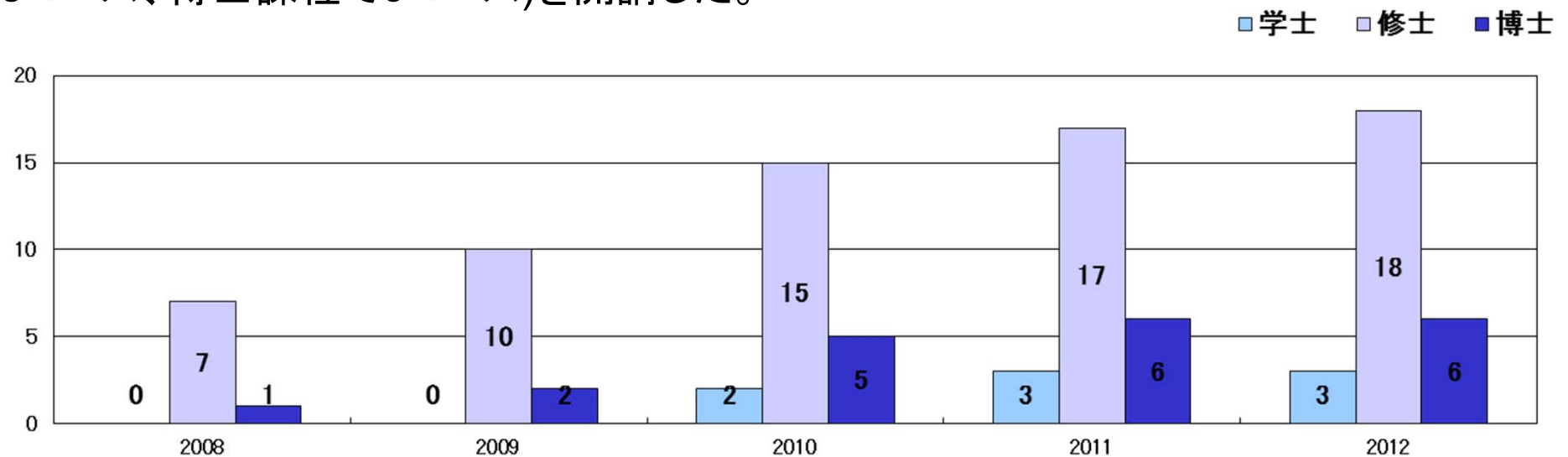


## 2. 取組状況

### ① 英語による授業のみで学位が取得できるコース

#### a. 英語コースの開設

- 2009年度に修士課程10、博士課程2コースをG30英語コースとして再発足させた。
- 2010年度から新たに、学士課程で2コース、修士課程で5コース、博士課程で3コースを開講した。
- 2011年-2012年に、新たに学士課程で1コース、修士課程で3コース、博士課程で1コースを開講し、当初計画の20コースを上回る全27コース(学士課程で3コース、修士課程で18コース、博士課程で6コース)を開講した。



【コース開設数】

## b. 学生確保の状況

- 2012年度において当初計画の20コースを上回る27の英語コースを開設することにより、今年度は新たに152人(12月入学予定者を含む)の留学生を受け入れることができた。
- 日本留学説明会の開催、WEBによる広報(2010年4月のアクセス数250→2012年4月のアクセス数1,000)などの活動により、2012年度学部入試においては35か国から91名の応募(約3倍)があった(想定募集人数28名)。2013年度学部入試の志願者は107名。
- 留学生の出身国も、ウガンダ、ナイジェリア、ウズベキスタン、エチオピア、シリア、マルタなど、これまで我が国とのなじみが薄かった国々に広がっている。
- ノルウェイ政府奨学生、カナダ、アメリカなど、欧米先進国の留学生も増加している。

2012.9.1 現在、単位：人

①1. ( )内は日本人学生数を内数で示す ②2. 太字はG30補助金対応プログラムを示す

| コース名           | 学部名     | 開設時期    | 学位 | 募集者数 | 入学者数 | 在籍者数 |
|----------------|---------|---------|----|------|------|------|
| 生命環境学際プログラム    | 生命環境学群  | 2010/08 | B  | 若干名  | 23   | 50   |
| 社会国際学教育プログラム   | 社会・国際学群 | 2010/08 | B  | 若干名  | 17   | 29   |
| 国際医療科学人養成プログラム | 医学群     | 2011/08 | B  | 若干名  | 3    | 3    |



①. ( )内は日本人学生数を内数で示す ②. 太字はG30補助金対応プログラムを示す

| コース名                        | 大学院研究科名   | 開設時期    | 学位 | 募集者数 | 入学者数          | 在籍者数   |
|-----------------------------|-----------|---------|----|------|---------------|--------|
| 国際共同農業研究エキスパート養成プログラム       | 生命環境科学研究科 | 2010/08 | M  | 8    | 11            | 15     |
| 国際生命産業振興のための実務者養成プログラム      | 生命環境科学研究科 | 2010/08 | D  | 8    | 3             | 9(1)   |
| 環境ディプロマティックリーダー養成プログラム      | 生命環境科学研究科 | 2010/04 | M  | 10   | 17(3)         | 38(9)  |
| 環境ディプロマティックリーダー養成プログラム      | 生命環境科学研究科 | 2010/04 | D  | 6    | 7(2)          | 17(2)  |
| バイオディプロマシーコース               | 生命環境科学研究科 | 2009/04 | M  | 若干名  | 0             | 1      |
| 国際連携環境プログラム                 | 生命環境科学研究科 | 2007/08 | M  | 若干名  | 31(9)         | 61(16) |
| 国際連携環境プログラム                 | 生命環境科学研究科 | 2007/08 | D  | 若干名  | 9(2)          | 37(8)  |
| 国際連携による持続的農業開発エキスパート養成プログラム | 生命環境科学研究科 | 2007/12 | M  | 15   | 4<br>※12月入学予定 | 8      |
| 国際連携による持続的農業開発エキスパート養成プログラム | 生命環境科学研究科 | 2007/12 | D  | 3    | 3<br>※12月入学予定 | 10     |

①. ( )内は日本人学生数を内数で示す ②. 太字はG30補助金対応プログラムを示す

| コース名                     | 大学院研究科名   | 開設時期    | 学位 | 募集者数  | 入学者数          | 在籍者数 |
|--------------------------|-----------|---------|----|-------|---------------|------|
| 廃棄物管理専門家養成コース            | 生命環境科学研究科 | 2010/04 | M  | 5     | 6             | 15   |
| 乾燥地資源科学コース               | 生命環境科学研究科 | 2011/04 | D  | 5     | 2             | 9    |
| 中央アジア国際関係・公共政策プログラム      | 人文社会科学研究科 | 2010/12 | M  | 20    | 2<br>※12月入学予定 | 4    |
| 中央アジア教育文化政策スタッフ育成プログラム   | 人文社会科学研究科 | 2008/12 | M  | 12    | 4<br>※12月入学予定 | 3    |
| 中央アジア日本研究教育スタッフの再教育プログラム | 人文社会科学研究科 | 2007/12 | M  | —     | —             | 12   |
| 国際関係論短期特別プログラム           | 人文社会科学研究科 | 2003/08 | M  | 5     | 8             | 8    |
| 経済・公共政策マネジメントプログラム       | 人文社会科学研究科 | 1995/04 | M  | 20名前後 | —<br>(隔年募集の為) | 15   |
| マスター・オブ・パブリックヘルスプログラム    | 人間総合科学研究科 | 2010/04 | M  | 10    | 4             | 4    |
| デュアル・マスターディグリープログラム      | 人間総合科学研究科 | 2009/04 | M  | 若干名   | 2             | 4    |
| インターナショナル・リサーチ・コース       | 人間総合科学研究科 | 2010/04 | D  | 10    | 2             | 3    |

2012.9.1 現在、単位：人

①. ( )内は日本人学生数を内数で示す ②. 太字はG30補助金対応プログラムを示す

| コース名                    | 大学院研究科名      | 開設時期                 | 学位 | 募集者数       | 入学者数   | 在籍者数   |
|-------------------------|--------------|----------------------|----|------------|--------|--------|
| 物質・材料工学コース              | 数理物質科学研究科    | 2009/04              | M  | 各専攻の募集の人員内 | 2      | 8      |
| ナノサイエンスコース<br>物理学コース    | 数理物質科学研究科    | 2011/04<br>(2012/04) | M  | 若干名        | 1      | 3      |
| ナノ化学コース                 | 数理物質科学研究科    | 2011/04<br>(2012/04) | M  | 若干名        |        |        |
| ナノサイエンスコース              | 数理物質科学研究科    | 2011/04<br>(2012/04) | M  | 若干名        |        |        |
| マテリアル・サイエンスコース          | 数理物質科学研究科    | 2011/04<br>(2012/04) | M  | 若干名        |        |        |
| 計算科学デュアル・ディグリー・プログラム *1 | システム情報工学研究科  | 2011/04              | M  | 若干名        | 0      | 0      |
| 国際経営プロフェッショナル専攻         | ビジネス科学研究科    | 2005/04              | M  | 30         | 32(25) | 79(61) |
| 図書館情報学英语プログラム *2        | 図書館情報メディア研究科 | 2012/04              | M  | 若干名        | 0      | 0      |

\*1 数理物質科学研究科DとコンピュータサイエンスMを同時に取得するプログラム→コンピュータサイエンスM単独も可に改定

\*2 今年度から新規開設

## c. 質の高い教育の提供と教育の質向上への取組

- 「教育の実質化」と「教育の質保証」を目的として、教学システムの改革に着手した。
- 学位を与える「課程中心の考え方」を整理し、人材養成目的に沿った「学位プログラム」化に取り組んだ。
- 教育の目標と達成方法及び教育の枠組みを、教育宣言「筑波スタンダード」として公表した。
- 国際化及び秋入学に適した2学期6モジュール制に、平成25年度から移行することを決定し、準備作業を進めた。
- 単位制度の実質化の徹底、シラバスの充実、主体的な学び(アクティブ・ラーニング)の確立などを進めた。
- 平成25年度から実施する計画で、ナンバリングの導入などの体系的なカリキュラムの整備、GPAなど厳格な成績評価の実施などの準備を進めた。
- グローバル人材育成の基礎となる教養教育と外国語教育(グローバル・リベラルアーツ)の改革を進めている。



## ② 留学生受入のための環境整備

### a. 留学生に対する支援(就学、生活、経済、就職等)

- G30学内取りまとめ担当(5名)、留学生/教育/就職担当(4名)、各支援室担当(7名)、生命環境系担当(5名)、社会科学系担当(4名)、医学系担当(3名)及び多言語対応事務職員を配置した。
- 大学独自の奨学金「つくばスカラシップ」制度を創設し、学士課程の初年度の授業料及び入学金は全員不徴収、定員の約半数に対し奨学金(月額6万円、授業料免除、初年度は渡航費10万円)を給付した。
- 留学生優先で学生宿舎に入居させる体制をとっている。平成25年度末には、学生宿舎全体(60棟3,927室)の5割を超える31棟(1,826室)が改修整備される。日本人学生と留学生の混住型を進め、日常生活を通じた交流の場を創出する。
- ポテンシャルの高い外国人留学生の採用に取り組む企業が増えていることに鑑み、外国人留学生に対するキャリア・就職支援講座の開設や企業説明会の充実により外国人留学生と企業とのマッチングを行っている。

### b. 日本語・日本文化の学習機会の提供

- 留学生センターでは、国費留学生を対象とした半年間の日本語予備教育、及びこれ以外の留学生で受講を希望する学生を対象とした日本語補講コースを開設している。
- 「ゼロレベルからの日本語自習e-ラーニングシステム(インターネット利用とDVD利用)」を開発し、渡日前及び入学後の日本語指導を行っている。
- 日本の文化や歴史、地域産業に対する理解を深める目的で、留学生のための文化研修を年間4コース実施している。コースは関東近辺の代表的な歴史・文化施設等を見学するものである。



## c. 海外拠点の設置と留学生の受入促進

- 海外からの優秀な留学生受入促進等を目的として、6つの海外拠点を設置
  - 北アフリカ・地中海事務所(チュニジア) 2006年5月
  - 中央アジア事務所(ウズベキスタン) 2007年6月
  - ホーチミン事務所(ベトナム) 2009年8月
  - 中国事務所: 北京オフィス(北京) 2009年10月、上海教育研究センター(上海) 2012年6月
  - ボン事務所(ドイツ) 2009年12月
- 受入重点国であるアジア諸国において顕著な留学生数の伸び
  - 例: 中国: 655名(2009年) ⇒ 856名(2012年)
  - ベトナム: 33名(2009年) ⇒ 56名(2012年)
- 留学生受け入れ環境の整備
  - 西安交通大学附属中学(高校)にG30 Partner Schoolを設置(2012年3月)
  - 各海外拠点にTV会議システムを設置し、G30現地入試を実施
  - 海外拠点を活用した留学説明会(留学フェア)を開催
  - 留学予定者への現地での渡日前留学情報及び日本語自習教材の提供
- 海外事務所の共同利用
  - 千葉大学インドネシア事務所と筑波大学ベトナム事務所の相互利用協定を締結予定

## d. 海外大学共同利用チュニジア事務所

### □ 現地における国内大学に関する広報活動; 10回の日本留学説明会を主催

- 2009年度 チュニジア(11月、2月)、アルジェリア(2月)、モロッコ(3月)
- 2010年度 チュニジア(11月)、モロッコ(3月)、モーリタニア(3月)
- 2011年度 チュニジア(11月)、モロッコ(3月)
- 2012年度 アルジェリア(11月)

### □ ワンストップサービス等の提供

- WEB (BUTUJ-News)による情報発信。
- 現地での個別留学相談を随時受け付けている。

### □ 共同利用の状況

- TV会議を用いた現地入学試験実施大学の支援。
- 文部科学省国費奨学生選抜に関する大使館支援。

### □ 全国窓口としての活動

- マグレブ3カ国と学術交流に関する包括協定を締結した。

①チュニジア共和国高等教育省(2010年)

②アルジェリア共和国高等教育・科学研究省(2011年)

③モロッコ王国高等教育・科学研究・幹部養成省(2012年)

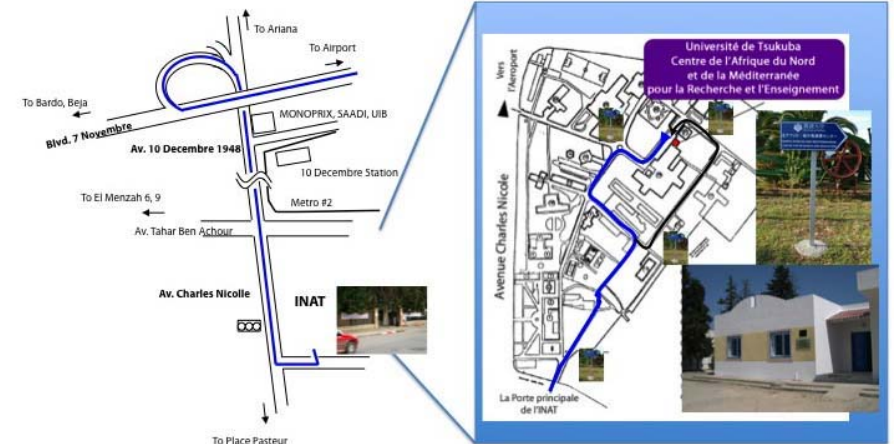
- 日本-北アフリカ学長会議の主宰

①2010年5月 第1回 チュニジア国チュニス市

②2012年2月 第2回 つくば市

③2013年10月 第3回 モロッコ国ラバト市(予定)

- 日本-アフリカ大学連携ネットワーク準備会議の主宰(TICAD-Vパートナー事業) 2012年12月 東京



2009年11月開所  
筑波大学海外大学共同利用チュニジア事務所  
(BUTUJ)

### ③ 拠点大学の国際化とネットワーク形成

#### a. 大学の国際化

- グローバル30事業を通して本学は国際社会でのリーダーを目指す一方、学生と教職員が世界の一員であることを日常的に実感する「国際性の日常化」環境を構築してきた。
- 留学生数は計画時の1,337人から2010年には目標値を上回る2,383人に増加した。
- 「本学は、グローバル30事業を機関車役として大学のグローバル化を推進し、「留学生の受け入れ機能の強化」について成果を上げた」

#### b. 大学間ネットワークの形成(国内大学との連携)

- 日本-北アフリカ学術連携ネットワーク:学長クラスの意見交換の場として、日本-北アフリカ学長会議の開催及び学術連携ネットワークの構築を行っている。
- 関東甲信越大学間コンソーシアム:関東甲信越地域の大学との国際関連教育及び業務における連携・協力の場として、15大学からなる関東甲信越大学間コンソーシアムを結成している。
- パイロットネットワーク:筑波大学、東北大学、名古屋大学は、国際関連教育及び業務における連携・協力の場としてパイロットネットワークを結成している。

#### c. 産業界との連携

- 筑波研究学園都市に根差した産官学連携ネットワーク:経団連、JAPIC(日本プロジェクト産業協議会)、インテル社、筑波研究学園都市にある研究所などの産業界、及びつくば市などの官界と連携し、産官学が一体となってグローバル人材の育成に取り組んでいる。





## d. 事務体制の国際化

- 本部にグローバル30担当チームを配置した。部局と本部との連携強化のため、部局に国際マター担当事務職員を配置し、全学の国際事務連絡会委員を兼ねさせた。
- 職員の語学力の維持・向上のために、国際性の日常化における基本方針を制定し、全ての事務職員が外国語によって留学生や外国人教員とのコミュニケーションが図られるよう求めた。

## e. 評価の実施と改善

### □ 中間評価結果における指摘事業等への対応状況

- 「これまでの取組状況を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される」との中間評価結果を得た。
- 指摘された日本人学生の履修の促進については、履修指導を行うとともに、日本人学生のG30プログラムへの編入、受験について検討を進めた。

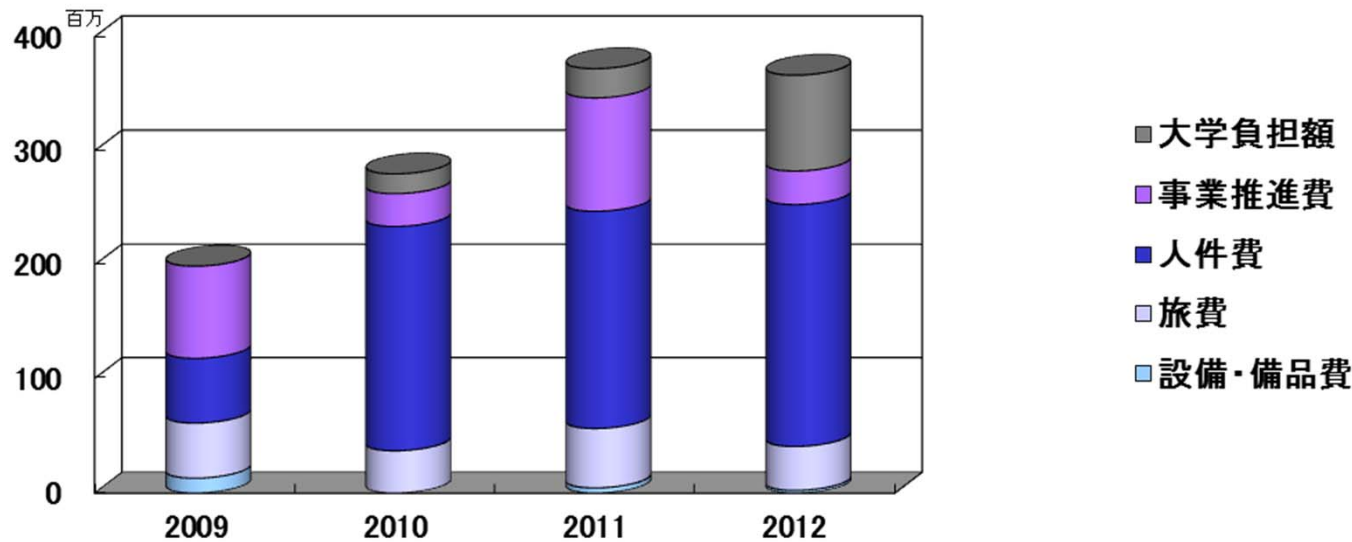
### □ 外部有識者等による評価の実施と改善

- 学外有識者5名からなる外部評価委員会を設置し、平成22年7月、平成23年2月、同10月に外部評価を行った。これまでのところ、本学のグローバル30プロジェクトは計画通り進捗しているとの評価結果を得た。
- 特に、北アフリカ、中央アジアやベトナムのように今後の発展を予感させ、これまで日本国との関係が希薄でありながら、日本に親しみを感じている国からの留学生の受け入れを、本学が積極的に進めている点が評価された。
- 一方、建学以来の理念である世界に開かれた大学に一步近づいた感じがするので、筑波大学の良いところや特徴をもっと上手にアピールすることが肝要であるとの指摘があった。

### 3. 経費の使用状況

#### ① 予算額の推移と使用実績

- 毎年度の活動規模を維持するため、毎年度学内経費(大学負担額)を計上している。
- 2009年度は英語プログラムの立ち上げ準備及び海外共同利用チュニジア事務所の開設経費に配慮して配分した。
- 人件費については、主に英語授業のための外国人教員や非常勤講師に宛てている。



注)2009～2011年度は実績。2012は計画予算。

#### ② 内部監査等の実施

- 毎年度、補助金の適正な執行を図るため、決算額を確定させるまえに監査を実施している。

## 4. 今後の課題と事業終了後の見通し

### ① 今後の課題と展望

- グローバル30補助金終了後の自走するポストG30の運営。
- 受け入れ外国人留学生と海外派遣日本人学生の充実によるグローバル人材の育成。

### ② 事業終了後(2014～)の見通し

#### □ 英語コースの拡充

- 当初計画を上回るペースで英語コースを開設している。
- 日本人学生との協働学修環境の充実を図る(グローバル・コモンズ)。

#### □ 留学生の受入促進

- サマースクールなど、短期留学を含めた総合的な留学生受け入れ策を推進し、当初計画した留学生数を達成する。

#### □ 補助金の終了に伴う代替財源の確保

- 主要経費は学内通常経費に繰り入れる。一部は概算要求、外部資金に応募。